



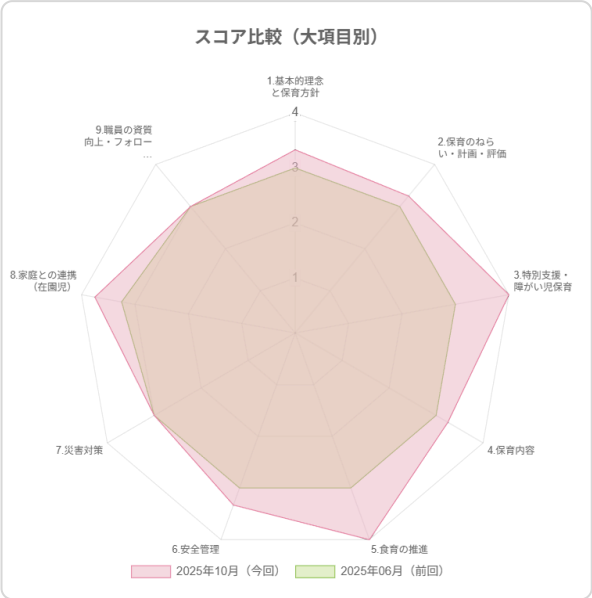
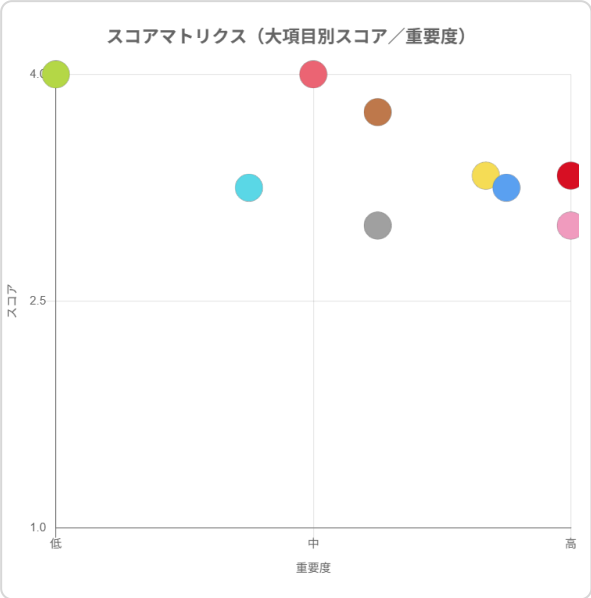
施設自己評価レポート 2025年10月度

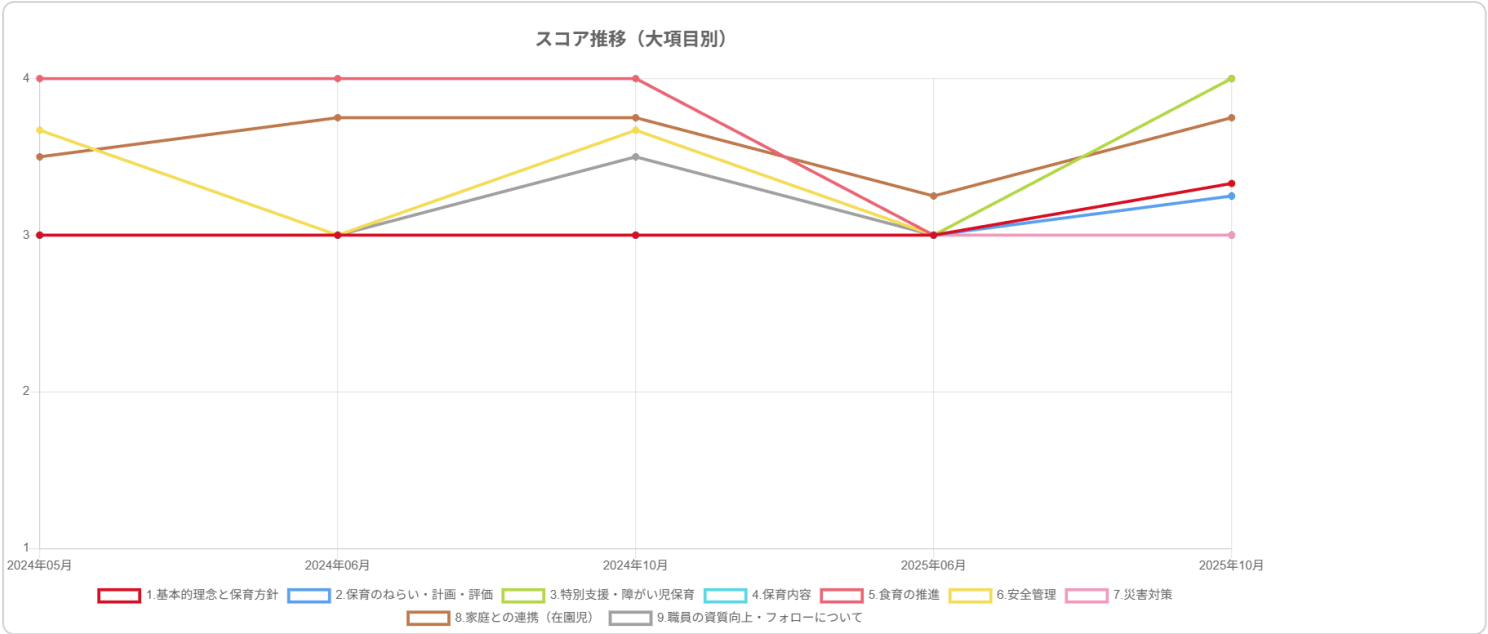
実施年月

2025年10月

表示

スコアレポート





まとめ 大項目ごとのスコアランキング

※重点課題になるものを「行動計画反映状況」から入力してください。

ランク	項目	スコア	重要度	総括/小項目詳細
1	3.特別支援・障がい児保育	4.00	低	<button>表示</button>
2	5.食育の推進	4.00	中	<button>表示</button>
3	8.家庭との連携（在園児）	3.75	中	<button>表示</button>
4	1.基本的理念と保育方針	3.33	高	<button>表示</button>
5	6.安全管理	3.33	高	<button>表示</button>
6	2.保育のねらい・計画・評価	3.25	高	<button>表示</button>
7	4.保育内容	3.25	中	<button>表示</button>
8	7.災害対策	3.00	高	<button>表示</button>
9	9.職員の資質向上・フォローについて	3.00	中	<button>表示</button>

項目別スコア（小項目）

健生くまのこ園 施設自己評価

実施月: 2025年10月

No.	評価項目	スコア	重要度	所見・取り組み状況
1	基本的理念と保育方針	3.33	高	「基本理念と保育方針」の項目において、高い水準で保育実践ができています。特に**「先入観による固定的な観念を植え付けない保育」**（スコア4）の達成度が高く、子ども一人ひとりの個性や発達段階を尊重し、公平で柔軟な関わりができていたことが示されました。 施設が掲げる基本理念に基づいた保育が、日常的に着実に実施されていると評価できます。
1 - 1	施設として子どもの人権に十分配慮するとともに、健生の保育理念/目標/方針を目指した保育が行われている	3	高	
1 - 2	先入観による固定的な観念を植え付けない保育が行われている	4	高	
1 - 3	施設として子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って活動できるような保育/援助ができています 	3	高	
2	保育のねらい・計画・評価	3.25	高	特に、「保育目標やねらいを基にした、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画の作成」（スコア4）において、最も高い評価を得ており、計画策定能力が優れていることが証明されました。 一方で、「保育指針にある『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』をイメージ・理解して保育が展開できている」については、他の項目よりやや低い「中」評価となっていますが、全体としては保育のPDCAサイクル（計画・実行・評価）を意識した実践ができていると評価できます。
2 - 1	子どもの発達の過程、特徴を理解し、保育方針や月のねらいに即した保育/援助ができています	3	高	
2 - 2	職員が入園から就学（卒園）までの発達の連続性、保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をイメージ・理解して保育が提供できている	3	中	
2 - 3	保育目標やねらいを基に、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画を作成している	4	高	
2 - 4	職員へ保育/指導計画の共有が行われ、具体的な計画・実行・振り返りについてディスカッションできる場がある	3	高	
3	特別支援・障がい児保育	4	低	今年度は、障がい児は在籍していませんが、日常の保育活動を通して個々の発達状況を把握し、個別の配慮を意識して取り組んでいます。
3 - 1	障害のある子どもの特性に合わせた個別配慮を立案し、個別の配慮を念頭とした関わりが現場でできている	4	低	
4	保育内容	3.25	中	「保育内容」の項目における全体平均スコアは3.25であり、「中」評価となりました。スコアは全項目で3以上と高水準ですが、評価区分が「中」や「低」に偏っているため、特に「社会性の成長」と「将来につながる学習機会」において、評価区分の改善が今後の重要な課題となります。 最高スコア4を達成した「将来につながる様々な学習機会の実践」（4-4）は、特に注目すべき点であり、意図的な学びの機会を提供できていると評価できます。
4 - 1	生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくような保育士の関わり、援助が保育内で展開されている	3	中	
4 - 2	各年齢/クラスごとの発達/成長に応じた保育活動・環境づくりをしている 	3	高	
4 - 3	異年齢の交流活動など子ども同士の関わりや集団における社会性の成長を目指した保育が実践できている	3	低	
4 - 4	言葉や数字など将来につながる様々な学習機会を保育内で取り入れ、実践している。	4	低	
5	食育の推進	4	中	「食育の推進」の項目において、全体平均スコア4という最高評価を達成しました。特に**「食物アレルギーや食事の様子などの情報共有」**（5-1）についてスコア4を得ており、安全管理と個別対応における連携が極めて適切に行われていると評価できます。
5 - 1	調理スタッフや管理栄養士、保護者と連携し、個々の食物アレルギー、食事の様子などの情報共有を定期的に行っている	4	中	
6	安全管理	3.33	高	「安全管理」の項目において、全体平均スコア3.33という高い評価区分「高」を達成しました。特に、「事故およびヒヤリハットの職員間での共有」（6-3）においてはスコア4を達成しており、リスクマネジメント意識の高さと、組織的な安全対策のPDCAサイクルが機能していることが証明されました。 他の項目（6-1、6-2）もスコア3の「高」評価であり、安全管理の基盤が強固に築かれていると評価できます。
6 - 1	感染症、事故防止など安全管理に対する施設方針やマニュアルが整備され、職員が理解し、実践している	3	高	
6 - 2	アレルギー児への対応/対策、午睡時のチェック管理、SIDS等について定期的な注意喚起がなされている。また職員が業務にて意識し取り組めている	3	高	
6 - 3	施設内で起こった事故およびヒヤリハットを職員全員が共有できる場や方法を設けている	4	中	
7	災害対策	3	高	「災害対策」の項目において、全体スコア、個別スコアともに**3（高）**を達成してお

7 - 1	園の災害対応マニュアルが周知されており、それに則り対応できるよう備えが来ている	3	高	り、園の災害対応マニュアルに基づいた職員の理解と準備が適切に行われていると評価できます。 これは、日頃から災害に対する意識を高く持ち、緊急時にも冷静に対応できる体制が整っていることを示しています。今後もこの高い水準を維持しつつ、より実践的で応用的な対応力の強化を目指します。
8	家庭との連携（在園児）	3.75	中	「基本的理念と保育方針」（平均スコア 3.33/高）と「家庭との連携」（平均スコア 3.75/中）の双方で、高い実践力が評価されています。特に、基本理念においては**「先入観による固定的な観念を植え付けない保育」（スコア4/高）、家庭連携においては「子どもの様子や成長の変化についての情報伝達」「地域ニーズの把握と対応」**（スコア4）と、最高スコアを多数達成しています。
8 - 1	子どもの体調や様子について保育内で情報共有が行えている。また保護者への情報共有ができています	4	中	一方で、「家庭との連携」の平均評価区分が「中」であることに留意が必要です。特に、**「個々の学びや成長の変化について保護者へ伝えること」**では、スコアは4と実践できているものの、評価区分が「低」となっており、**情報の「質」や「伝え方」**に関して、さらなる細やかさが求められていると判断できます。
8 - 2	活動内容を伝えるだけでなく、個々の学びや成長の変化について保護者へ伝えることが来ている	4	低	
8 - 3	保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になれるよう心掛け、対応している	3	高	
8 - 4	入園希望者など地域の保育ニーズを把握し、必要に応じ、自治体情報の提供や子育て相談に対応している	4	高	
9	職員の資質向上・フォローについて	3	中	「基本的理念と保育方針」（平均スコア 3.33/高）と「職員の資質向上・フォロー」（平均スコア3.00/中）の評価に基づき、保育の理念実践は高い水準にある一方で、リーダー層の資質向上と学んだ知識の共有が今後の組織強化の鍵となることが示されました。
9 - 1	職員が個人の目標/振り返りを通し課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	3	中	特に、基本理念における**「先入観による固定的な観念を植え付けない保育」（スコア4/高）は最も優れた実践であり、保育の質を担保する重要な要素となっています。しかし、「職員の資質向上」では、リーダー層の行動（9-2）が「低」評価となっており、組織全体の成長を促すための人材育成と知識共有の仕組み**を強化する必要があります。
9 - 2	リーダーとして園長、管理者、主任等が率先し自身の保育知識・技術を向上させる行動が来ている。また、学んだ知識やスキルを職員へ共有する機会・行動を行なっている	3	低	
9 - 3	保育現場において上司や同僚から振り返り、助言を安心して受けられる環境・機会を設けている	3	高	
9 - 4	園の決定事項共有事項について、職員が納得できるよう十分に理解を促す配慮が来ている	3	高	